

関西学院大学新聞

2021年11月22日 第854号



発行

関西学院大学新聞総部
〒662-0891
西宮市上ヶ原一番町 1-155
電話：0798-51-1181
E-mail: info@kgpress.jp
HP: www.kgpress.jp
Twitter: @KG_shinbun
発行人：木村 航太
編集人：林 昂汰
校 関：平田憲太郎

100 円学食 今年も
大学の生協食堂などが、昨年に引き続き、食事を 100 円で提供。学生でにぎわいを見せた。
2 面

秋の味覚を手軽に楽しむ
関西学院大学卒業生で、クックパッドの小竹貴子さんに学生でも簡単に季節を楽しめる料理について話を聞いた。
4 面

**グリー 12 回連続全国
エゴラド 6 年ぶり金賞**



8 面

ワクチン接種の関学生 チャージ券 1000 円分進呈

関西学院大学は9月20日から、「ワクチン接種お疲れさまでしたキャンペーン」を始めた。この企画では、新型コロナウイルスのワクチンを2回接種した学生に関学生協のICプリペイドのチャージ券1000円分をプレゼントする。関西学院大学以外の会場で接種した学生も対象となる。

この取り組みは、学生のワクチン接種を促進するという意味合いもある。学長室大学院課の大野健一郎課長（44）は接種の強要ではないとして「打たない人も含め、コロナの感染防止について改めて考えるきっかけにしてほしい」と話した。

チャージの期間は12月23日まで。チャージ券は、大学で接種した学生には2回目の接種時に配布し、大学以外で接種した学生は接種済証と学生証を関学生協の店舗に提示するともらえる。（武田裕貴）

対面授業 来年度から

関西学院大学は10月28日、来年度の授業形態について、対面授業を基本とする方針を明らかにした。今後の新型コロナウイルスの感染状況や、自治体の方針によって変更する可能性を示した上で、学長室の担当者は「対面授業によってコミュニケーションが生まれると認識している」と話した。

新たな指針を決定した背景には、10月から落ち着きつつある感染状況があった。「原因は不明だが、感染状況は落ち着いている。ワクチンの接種率や治療薬の開発に鑑みて、来年度には落ち着き、だろうと判断した」と説明した。対面授業実施の目安には「大学が定める、活動制限レベル2以下である」ことがあるという。

大学は来年度の授業形態を、感染が拡大する以前と同様に扱うことを検討している。ただし、開講部局がオンラインでの授業が効果的と判断した科目のみ、オンラインでの実施を予定している。基礎疾患がある、もしくは濃厚接触者で対面の参加が困難という声があった。教育学部2年の女子学生は「関学からのメールで接種について知った。実習で子供と関わるので接種することを決めた」と話した。

大学は当時、感染症対策としてキャンパス内への大学関係者以外の立ち入りを禁止していた。広報室は「市民と学生が混ざらない時間に実施する」と説明した。

黒原投手 1位指名

広島から



プロ野球ドラフト会議が10月11日、東京都内であり、関西学院大学から、黒原拓投手（社会学部4年）が広島東洋カープの1位指名を受けた。

5面に続く
指名あいさつで広島
の佐々岡監督と握手
する黒原投手 10月
19日、関西学院会館
柴崎辰徳撮影

ワクチン接種終了 1万2千人余りが接種

関西学院大学は8月23日から11月2日まで、西宮上ヶ原キャンパスで学生や教職員らを対象とした新型コロナウイルスの接種を実施した。大学の発表によると、合計1万2千人余りに接種。学生が約9200人、教職員が約450人、西宮市に提供した市民枠が約2200人で、他の会場で1回目を受けた人の2回目接種も受け入れた。接種開始当初、ワクチンを接種した理由について聞くと「周りの人につきたいため」

という声があった。教育学部2年の女子学生は「関学からのメールで接種について知った。実習で子供と関わるので接種することを決めた」と話した。

大学は来年度の授業形態を、感染が拡大する以前と同様に扱うことを検討している。ただし、開講部局がオンラインでの授業が効果的と判断した科目のみ、オンラインでの実施を予定している。基礎疾患がある、もしくは濃厚接触者で対面の参加が困難という声があった。教育学部2年の女子学生は「関学からのメールで接種について知った。実習で子供と関わるので接種することを決めた」と話した。

大学は当時、感染症対策としてキャンパス内への大学関係者以外の立ち入りを禁止していた。広報室は「市民と学生が混ざらない時間に実施する」と説明した。

9月1日午後、大学拠点接種で使用している米モデルナ製ワクチンを充填した注射器に黒い異物が見つかったため、接種を一時中止していた。ワクチンのロット番号は、厚生労働省が8月26日に公表した、使用を見合わせていた三つの番号とは異なっていたという。

広報室によると、9月1日と2日の予約分はキャンセルされたため、3日以降の日程で再度予約する必要があるという。（柴崎辰徳、西村遼、西本明日華、吉永美咲）



ワクチン接種の様子 8月23日、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス、西村遼撮影



《秋来ぬと目にはさやかに
見えねども風の音にぞおどろ
かれぬる》。立秋になっても
秋が来たというにはつきりと
分からないけれども、風の音
ではつと気付かずにはいられ
なかった。朝夜を涼しく感じ
始める10月頃、毎年筆者の心
に浮かぶ、四季の移ろいを敏
感に捉えた藤原敏行の一句
だ。木々の紅葉という目に見
える秋もあるが、風の音とい
う、視覚では捉えることがで
きないものに秋を感じた藤原
敏行の感性に恐れ入る▼季節
の変化を知らせてくれる風の
音とは異なり、誰しも目で
見、音を聞き、更に肌で感じ
ることもできないのが、新型
コロナウイルスではないか▼

8月、筆者は濃厚接触者になり2週間の自粛生活を余儀なくされた。保健所から連絡を受け、まさか自分が……、という思いと、どうこうなつてしまったか……という思いが頭の中を駆け巡った▼幸い抗原検査で陰性と分かり安堵したが、新型コロナウイルスの恐ろしさを改めて感じた。治療薬はまだ無いのはもちろん、病原体であるウイルスを肉眼で見ることができず、忍び寄る音を聞くことも、肌で感じることもできないからだ。どんなに感染対策をして気を張って生活していても、感染者と思いがけず接触しているのかもしれない▼風が冷たく、空気も乾燥してくるこれらの季節は、新型コロナウイルスだけでなく、風邪やインフルエンザなど他の感染症にも留意しなければならぬ。見え、聞えず、感じられないウイルスとの闘いはまだ続く。

新月祭

今年もオンライン中心

関西学院大学大学祭総部は10月から11月にかけて、各キャンパスで新月祭を開催した。昨年に続き、新型コロナウイルスの影響で、今年度の新月祭もオンライン中心で開催した。大学祭総部新月祭実行委員会（経済学部3年）は「オンラインになったのでパンフレットが配れなくなり、協賛の半分を失ってしまった」と肩を落とした。

たステージでのイルミネーションを対面で開催。その他にも、ロックバンドやお笑い芸人のライブなどをオンラインで配信した。

作本委員長は開催について「運営側として自分たち、来場者、参加団体の安全が確保できない中での開催は腑に落ちない。安全を第一に考えれば致し方ない」と話した。

大学祭総部は当初、対面での開催のため、様々な感染対策を計画していた。模擬店の決済では、接触を減らすため、現金のやり取りではなくスマ

6日と7日の西宮上ヶ原キャンパスでは、俳優のトキショー、中谷美咲に設営し

たが、今年度は学生証の提示のみで参加できた。

生協食堂の鈴木力店長（41）によると、このキャン

ペーンによってピーク時の生協食堂の利用者数が開始前の2倍に増えたという。鈴木店

長は「店舗数が減少する状況が続いていたが、今は活気づいている。これ以上うれしいことはない」と話した。

生協売店で販売している弁当は1日当たり80個販売したが、いずれも午後1時前に完売していた。

このキャンペーンには生協以外の飲食店も参加した。西宮上ヶ原キャンパス新学生会館1階の食堂「東京庵」では全メニューを対象に、3000円以上の支払いで3000円引きになった。若女将の中口みどりさんは「学生支援に貢献

額は増えたのに、収入源が大きく減ってしまったと苦しげに話した。（二宮麗恵）

企画を撮影する実行委員10月24日午後3時、神戸三田キャンパス、柴崎辰徳撮影



「春学期に対面授業をしてほしかった。今のままでは、自信を持って実習に行くことができない」と嘆くのは、小

学校の教員免許取得を目指す、関西学院大学教育学部3年の女子学生。

小学校教員の免許取得には、3、4週間程度の教育実習が必要とされる。教育学部

には、実習に向けて授業について学ぶ模擬授業や、音楽や家庭科など実技を伴う授業の実習など、様々なカリキュラムが用意されているが、新

型コロナの状況下においては、ほとんどがオンラインでの授業になっていた。

模擬授業では、教師役の学生が児童役の学生に授業し

てきつらしい。キャンペーンをきつかけに今後も来ていただきたい」と話した。（上田帆乃佳）

女子学生は「実際に人を前にして授業をしないと経験が積めない。作成した指導案に

対しても、教師からは一言一言のコメントがあるだけ。これでは何が正解かが分からない」と不安を語る。

学外での実習も、新型コロナウイルスの感染状況に影響を受けてきた。感染状況が一時的に収まった昨年9月には、兵庫県宝塚市の小学校に

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

コロナ禍での教育実習

対面実習の不足に嘆き

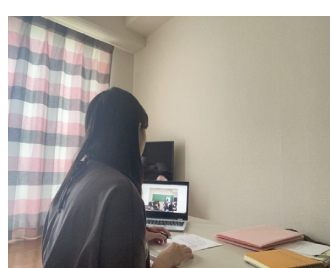
助言を受ける。黒板や机に囲まれた空間で、より良い授業の方法を試行錯誤しながら学んでいく。しかし、対面での模擬授業をする機会はなく、代わりに1人で授業している様子を撮影したものや、指導案を提出しただけだった。

女子学生は「実際に人を前にして授業をしないと経験が積めない。作成した指導案に

対しても、教師からは一言一言のコメントがあるだけ。これでは何が正解かが分からない」と不安を語る。

学外での実習も、新型コロナウイルスの感染状況に影響を受けてきた。感染状況が一時的に収まった昨年9月には、兵庫県宝塚市の小学校に

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供



関学生協 食事を100円提供にぎわい取り戻す「大学の味」

関西学院大学は10月4日から20日、新型コロナウイルスの影響で経済的に苦しんでいる学生を支援するため、生協食堂や売店で食事を100円で提供するキャンペーンを開催した。学生が対象で、学生証を提示すると利用できた。

西宮上ヶ原キャンパスの生協食堂では、日替わり定食の「サンキューセット」やロー

スカッカレー、麺類と丼が対象となった。生協売店では週替わりで丼や弁当を用意した。

このキャンペーンは昨年度も開催されており、今年度もアルバイトの収入や仕送りが減った学生の支援のため関西学院後援会が予算を用意した。昨年度は新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の提示が参加条件だった。

このキャンペーンには生協以外の飲食店も参加した。西宮上ヶ原キャンパス新学生会館1階の食堂「東京庵」では全メニューを対象に、3000円以上の支払いで3000円引きになった。若女将の中口みどりさんは「学生支援に貢献

額が増えたのに、収入源が大きく減ってしまったと苦しげに話した。（二宮麗恵）

企画を撮影する実行委員10月24日午後3時、神戸三田キャンパス、柴崎辰徳撮影

たが、今年度は学生証の提示のみで参加できた。

生協食堂の鈴木力店長（41）によると、このキャン

ペーンによってピーク時の生協食堂の利用者数が開始前の2倍に増えたという。鈴木店

長は「店舗数が減少する状況が続いていたが、今は活気づいている。これ以上うれしいことはない」と話した。

生協売店で販売している弁当は1日当たり80個販売したが、いずれも午後1時前に完売していた。

このキャンペーンには生協以外の飲食店も参加した。西宮上ヶ原キャンパス新学生会館1階の食堂「東京庵」では全メニューを対象に、3000円以上の支払いで3000円引きになった。若女将の中口みどりさんは「学生支援に貢献

額は増えたのに、収入源が大きく減ってしまったと苦しげに話した。（二宮麗恵）

企画を撮影する実行委員10月24日午後3時、神戸三田キャンパス、柴崎辰徳撮影

女子学生は「実際に人を前にして授業をしないと経験が積めない。作成した指導案に

対しても、教師からは一言一言のコメントがあるだけ。これでは何が正解かが分からない」と不安を語る。

学外での実習も、新型コロナウイルスの感染状況に影響を受けてきた。感染状況が一時的に収まった昨年9月には、兵庫県宝塚市の小学校に

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

リポート提出に変わった。女子学生は「介護等体験は、教員免許の取得に必要な実習。経験しないまま、レポートで済ませたいものか」と困惑した表情で語った。（前田瑞季）

オンライン授業を受ける女子学生日本人提供

1週間の実習に行くことができた。しかし、小中学校教員免許の取得に必須の「介護等体験」は、6月に予定していたが感染の再拡大により中止になり、参考資料を読んだの

吹奏楽部

関西大会出場

活動制限乗り越え

関西学院大学応援団総吹奏楽部は、8月11日に郷の音ホール（兵庫県三田市）で開催された兵庫県吹奏楽コンクールで金賞を受賞し、県代表に選出。続く8月22日に奈良県文化会館（奈良市）で行われた関西大会に出場し、銀賞を受賞した。新型コロナウイルス感染症の影響で、活動を大幅に制限していた同部。短い練習期間を乗り越えての快挙だ。

7月中旬までは、キャンパスに入って練習することさえできなかったという。「それでも、コンクールに出場したい」という選択はしなくなく、たと、商学部4年の上野果

ももこ部長は話す。「出場しないのは、後輩に申し訳ない気持ちがあった。昨年度はコンクール自体が中止になっていた。部員の成長のためにも、出させてあげたかった」

数十人で演奏をする吹奏楽は、対面での合奏練習が欠かせない。しかし、音楽器の演奏時には、飛沫感染の危険性も高く、練習の許可は簡単には下りない。春は感染症対策のガイドラインを何度も修正し提出する日々だった。順調に活動している他団体を見て、悔しい思いをしたこともあったという。

ようやく合奏練習が許可された時には、コンクールまで1カ月を切っていた。パーティションの設置、換気や手洗いを実施しながら、ガイドラインに沿って練習に励んだ。コンクールまでの期間は、密度の高い練習が求められたと上野部長は語る。「十分な練習時間を取ることができない分、指導されたことをその場ですぐに消化しなければならなかった。レベルの高い合奏が求められた」

迎えた本番。結果にこだわっていたわけではなかったものの、金賞と聞いた時は喜びを感じた。上野部長は部員が頑張ってくれたおかげ、みんなを誇りに思う」と笑顔で語った。



昨年の定期演奏会の様子＝同部提供

おにぎり写真投稿

途上国の給食費寄付へ

投稿すると、写真1枚当たり5食分の給食が、発展途上国の子どもたちに届けられる。届けるための費用は協賛企業が負担する。

TFITの「おにぎりアクション」にGS Networkが賛同し、生協食堂と連携することで、今回のイベント開催に至った。同団体のメンバーが、生協食堂の作ったおにぎりとお汁を販売した。おにぎりは120円から180円で、豚汁は110円だった。

GS Networkの阿部紗也さん（国際学部3年）は、「おにぎりに興味を持った学生だけでなく、教職員の方も買いに来てくれる。おにぎりを通じて、学生と教職員の啓発につなげられている」



POCKET MAMAで行われたおにぎり販売＝10月29日、一宮麗果撮影

おにぎりは固定メニュー4種と日替わりメニュー1種を用意し、全ての日程で全種類が完売した。（一宮麗果）

胎内被爆者の証言集を翻訳

全国の学生50人と原爆を考える

原爆ドームを目にしたながら登下校する学生時代、平和への思いを募らせていた。関西学院大学文学部4年の貞岩しずくさん（21）は、妊娠中に被爆した母親から生まれた胎内被爆者の手記集「生まれた時から被爆者―胎内被爆者の想い、次世代に託すもの―」を英語に翻訳する会を立ち上げ、その中心メンバーとして活動している。

島以外で広島のことを考えよう」という思いで、広島県江田島市でのフィールドワークが大学にあることを知り、関学大への進学を決めた。

大学で履修したフィールドワークの授業で、地元の人から手記集を紹介された。手記集は2回目の出版で、前回からの5年間で証言が増え、任意の人での翻訳はできない状況だったという。

手記集には、原爆投下直後の家族の体験や、病氣や差別に苦しんだ半生、核兵器廃絶への運動など約50人の証言が

困難な状況乗り越え、周囲への感謝の気持ちも強くなった。舞台上で演奏するまでにたくさんの人に支えられていることを、改めて実感したコンクールだった。

今年度の吹奏楽部のスローガンは「つながる」。音楽を通して、人や歴史、部員一人一人の成長をつなぐという意味が込められている。コンクールに出場できたことで、一つ歴史をつなぐことができたと思っている」（前田瑞季）

関西学院大学の学生団体GS（Global Student）Networkは10月25日から29日に、関西学院大学生協同組合と、社会貢献イベント「関西おにぎりアクション」を開催した。購入したおにぎりの写真をSNSに投稿すると、協賛企業から発展途上国の子どもたちに給食費用が寄付される仕組み。

「おにぎりアクション」は、食を通じて、世界の肥満問題と飢餓問題の解決を目指す特定非営利活動法人（NPO法人）「TABLE FOR TWO International」（TFIT）の活動の一つ。おにぎりにまつわる写真やハッシュタグ「#OnigiriAction」をつけてSNSや特設サイトに

学生、原爆や平和について関心がある学生と、さまざまな立場の学生がいる。参加している学生の半分は以上は貞岩さんとは面識がなかったというが、知人から知人へとつながりを広げ、有志が集まった。他の地方の出身者との原爆についての知識差に驚くこと

もあつたというが「他の地方出身者の子にも、考えなくちゃいけないことだと思ってる。知らなかったら、知って良かった」という声もあつたという。手応えを明かす。「県外に出て、どうしても広島のことを勉強しなくては」という広島出身の学生も、翻訳作業

が再び勉強するきっかけになっている。

現在は翻訳中で、年内に下書きの完成を目指している。完成した翻訳集は手記集を制作した胎内被爆者全国連絡会に渡す予定だが、校閲などのめどが立つておらず、発表の形は未定だ。

原爆について「知れば知るほど何もできなくなる」というが、今後も「小さな場だけど仲間と原爆について話したり、被爆伝承者の方に話を伺ったりしていきたい」と話した。（林昂汰）

手記集を手にする貞岩しずくさん＝林昂汰撮影

対面式も開催

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスで8月7、8日、オープンキャンパスがあった。昨年は新型コロナウイルスの影響でオンラインのみだったが、今年は対面式とオンラインを併用して開催した。

今回のオープンキャンパスでは、入試説明や学部紹介、留学や奨学金といった各種制度の説明、在学生による相談会、キャンパスツアーなどを実施。永野誠入試課長（46）によると、オンラインでは対

面式の内容に加え、各学部の説明会を配信したという。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面式は予約制だった。参加者ごとに送られたバーコードから、予約したプログラムを受けられるようになっていた。永野課長によると、学内に入っている人数を把握するための措置だという。

また、ボランティア系サークル「KG CLUB」が運営に協力した。大学内を案内するキャンパスツアーや、感染症対策として参加者の手のアルコール消毒、講義室や休憩室の定員が守られているかのチェックといった活動をした。

来場型で参加した大阪市在住の女子高生（17）は「オープンキャンパスが無くなるか不安だったが、無事に参加できて良かった」とほっとした表情を見せた。

対面式では県内や近隣の府県からの参加者、オンラインでは比較的遠方からの参加者が多かったという。（秋田倅宣）

受付

参加者＝8月7日、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス、西村遼撮影

簡単に

季節を感じる食事

季節の移り変わりは、食材にも変化をもたらす。関西学院大学社会学部の卒業生で、レシピ投稿サイトを運営する「クックパッド」の小竹真子さんに、学生でも簡単に季節を楽しむ料理について話を聞いた。

小竹さんは、天候に左右されない食材としてキノコを挙げた。工場で作られるため価格の変動が小さく、調理も簡単だ。「手で割けて、1分

で火が通る。種類が多く、余っても冷凍で保存できる」と魅力を話す。キノコは食物繊維やビタミンが豊富で低カロリーであることから、学生に勧めたい食材だという。「秋のイメージもあって、簡単に季節を感じられる食材だ」

小竹さんは一人暮らしだった学生時代に「パパッとおいしく」料理することを意識していた。趣味や買い物に時間とお金を使いたいという思いから、食費はなるべく抑え、食器や調理器具といった洗いや物を少なくすることも心掛けていた。

中でもアルミホイルで作る「ホイル焼き」は、サケやキノコ、野菜を調味料と共にトースターで10分ほど焼けば完成する。野菜の種類やチーズの組み合わせ次第で和食、洋食、イタリアンなどに変化する。フライパンや皿が汚れず、食器を洗う手間も省ける。

家でキャンプ体験 千刈オンラインサマーキャンプ

関西学院大学宗教総務部千刈リーダーズクラブは8月28日、オンライン会議システム「Zoom」で、オンラインサマーキャンプを開催した。小学生を対象に、焼きリンゴ&オンラインキャンプファイアや木の家作りなど、六つの

プログラムがあった。当日は子供たちの生き生きと活動する姿が見られた。

焼きリンゴ&オンラインキャンプファイアでは、同部員の指示の下、焼きリンゴを製作。参加した小学生は「おいしい」と口々に声を上げた。オンラインキャンプファイアでは、握られた指を素早く引き抜いて遊ぶ指キャッチゲームで盛り上がった。関西学院初等部に通う江口泰生さん(9)は「六つ全てのプログラムに参加した。その中で、キャッチゲームが一番楽しかった」と笑顔を見せた。

オンラインサマーキャンプのチーフリーダーを務めた法学部3年の阿部瑞希さん(20)は「子供たちが大きなリアクションを取ったり、進んで話しかけてきたりしてくれた。予想より楽しんでくれた。予想より楽しんでくれた。」

集合写真を撮る子供たちとリーダー同クラブ提供



は、兵庫県三田市にある千刈キャンプで2泊3日のサマーキャンプを開催していた。今年には新型コロナウイルスの感染拡大を理由に大学から開催の許可が下りず、オンラインで行った。

オンラインでキャンプの味わいをどう表現するか悩み、準備は例年より難しいものとなった。木の家作りで使う資材として、千刈キャンプにあった木材や松ぼっくりを郵送。できる限りキャンプの雰囲気を感じてもらえるように工夫したという。

「うれしかった」と振り返った。子供たちが楽しませるはずが、逆に僕らも楽しませてもらっていることに気付いた」と喜んだ。

(大藪巨翔)

エリンギの 炊き込み御飯

材料(2人分)
米……2合
油揚げ(細切り)……1枚
エリンギ(薄切り)……1パック
シイタケ(薄切り)……3個
ニンジン(細切り)……50g
(調味料)
しょうゆ、みりん、酒……各大さじ2
だし……適量



作り方

- ①炊飯器に米を入れて、調味料を入れ2合の線までだしを入れる。
- ②ニンジン、シイタケ、エリンギ半分を入れて炊く。炊き上がった後、エリンギ半分を入れて3分蒸す。
- ③ざっくり混ぜて完成。

焼きそばの オイスターソース炒め

材料(2人分)
焼きそば用麺……2玉
豚バラ肉(食べやすい大きさに切る)……200g
春菊(食べやすい大きさに切る)……1株
シメジ(石づきを取ってほぐす)……1パック
サラダ油……大さじ1
オイスターソース……大さじ2



作り方

- ①フライパンにサラダ油を熱し、豚肉を炒める。
- ②豚肉に火が通ったら春菊とシメジを加えて炒める。
- ③焼きそば用麺を入れ、最後にオイスターソースを加え、麺をほぐしながら全体を混ぜ合わせて炒めて完成。

ポプラ 営業再開

関西学院会館にあるレストランポプラは10月6日、会館の改修工事を終えて2カ月ぶりに営業を再開した。初日には約90人が来店し、常連客たちは久しぶりにポプラでの食事を楽しんだ。

工事の間は建物全体が休館になり、館内のポプラも休業を余儀なくされていた。会館で10年間、レストラン、宴会の責任者を務める湯之上和弘マネジャーは「1年前から休業を伝えていたが、常連客からは寂しいとの声があった」と当時の様子を話した。

ポプラの常連客は大学教授や卒業生、近隣住民など。和食と洋食の御膳を提供して

いる。中でもポプラ御膳は看板メニューである。コロナ禍になつてから常連になったという大学院生はポプラ御膳をよく頼む。「夕食で和食を学外で食べようと思うと値段が高い。学外のレストランの料理の質と比べると、レストランポプラの値段は安い。スタッフも親切で、子供もよく連れてくる」と絶賛した。

現在は新型コロナウイルスの影響で、座席を通常の半数以下の45席にして営業している。結婚式の料理の提供もしている。再開初日の来店者数は、緊急事態宣言下の1.5倍となった。「待つてもらったお客様への期待には応えられなかった」と湯之上マネジャーは笑みを浮かべた。

(井上聡、西村遼)

ドラフト会議 黒原 広島から1位指名

「勝ち星重ねてチームの柱に」

プロ野球の新人選択（ドラフト）会議が10月11日、東京都内であり、関西学院大学からは、今春リーグ戦MVPの黒原拓未投手（社会学部4年）が広島東洋カープの1位指名を受けた。黒原投手は「広島カープは、地元の方から愛されている球団」と「毎シーズン、こつこつと勝ち星を重ねてチームの柱と言われるような投手になりたい」と語った。

黒原投手は自身のアピールポイントとして「強気で投げ込む投球スタイルと力のあるストリート」と答えた。また「プロになることがゴールではない。これからスキルを上げられるよう（自分に）厳しくしたい」と語り「キャンプまで



「目標は新人王」

10月19日、西宮上ヶ原キャンパスの関西学院会館で広島

サッカー部 FW木村勇大 京都サンガF・C 入団内定

23年度から

関西学院大学体育会サッカー部の木村勇大（社会学部3年）が、京都サンガF.C.へ2023年度からの入団を内定。身長184センチ、体重78キロと大柄な体格ながら、スピードもあり、ゴールへ向かっていく迫力は他の選手と一線を画する。技術と決定力も兼ね備え、今季の関西学生サッカーリーグでは12試合で14得点を記録した。



京都サンガF.C.に入団を決めたのはチームの熱量や専任監督（52）の存在があった。担当のスカウトも試合に多く駆けつけ、監督からも直接「来てほしい」と言葉

を求められ「守備面の弱みを克服して、かつ攻撃面の長所も伸ばせる」と感じた。

今年の1月には他のJクラブの練習に参加したが、あまり良い手応えはなかったという。その後、6月に京都の練習に参加。「京都に行っていたい意識が変わった。守備を頑張ったり、これからもっと成長できる」と実感した。

木村は早生まれのため、年齢制限のある24年のパリ五輪代表世代だ。「パリ五輪に出たい。いずれは日本を代表するストライカーになれば」と目標を語った。（林昂汰）

アメフト 関西リーグ優勝

58回目の快挙

関西学生アメリカンフットボール1部リーグは11月14日、ヤンマースタジアム長居（大阪市東住吉区）で優勝決定戦があり、Bブロック1位の関西学院大学とAブロック1位の立命館大学が対戦し、28-25で関学大が勝利した。互いに得点を奪い合う接戦を制し、58回目の関西リーグ優勝を果たした。



WR 戸田＝西村遼撮影

第1クォーター（Q）の終盤、関学大のRB前田公昭（4年）がタッチダウン（TD）を決め、先制。第2Qでは、関学大のRB前島仁（2年）のパスをWR戸田龍太（4年）がエンドゾーンで受け止め、華麗なTDを成功させた。立命館大にTDやフィールドゴールから失点するも、前半を14-11で終えた。

第3Qでは、立命館大のRB平浩希（4年）にTDを決められ、逆転を許す。第4Q開始直後、関学大の前田が独走でTD。続いてRB齋藤隆（4年）も、相手を押しかつてTDを決めた。その後、立命館大にTDを決められるも、優勢を保ち、28-25で逃げ切り勝利した。

関学大の前田は「残り数分で点を取られ、楽な状況ではなかった。そのような中でも、一つ一つのプレーを大切に、最後までプレーできた」と試合を振り返った。

関学大主将のDL青木勇輝

関西学生サッカーリーグは10月10日、後期第7節が皇子山総合運動公園陸上競技場（天津市）などであり、関西学院大学は関西大学に1-0で勝利した。

ゴールは前半の32分だった。関学大がゴール前に持ち込みシュートを何本も放つと相手選手のハンドがあり、一発退場に、獲得したPKをFW木村勇大が落着いて決めた。木村は「自分がかんだPKではないので、それだけの責任があった」と謙虚に

（4年）は「立命館を倒さないといけないと思って頑張ってきた1年だった。優勝できたのは率直にうれしい」と喜んだ。

12月5日には、全日本大学選手権の西日本代表決定戦がある。青木は「決定戦までに、今年の目標であるアグレッシブなチームにより近づけていきたい」と力を込めた。

（大藪巨翔、西村遼



第4Q、独走で逆転のTDを決めたRB前田＝西村遼撮影

話した。

その後は関西大にほとんど攻めを許さず、後半のアディショナルタイムに入っても攻め続けた。木村は「前から守備をしていくのがチームの方針だった。前半は守備が剥がされることもあったが、途中から連動していった」と笑顔で語った。DF本山遥は「以前の試合では攻めすぎて（守備が）崩れることもあった。守備ができるようになってきたチームの成長を挙げた。」（井上聡）

サッカー部 関西制覇

6年ぶり 30回目



優勝セレモニーで記念撮影するサッカー部。11月13日、たけびしスタジアム京都、秋田倅直撮影

部室
だより

邦楽クラブ
和楽器の魅力広げる

急激に冷え込み、秋は瞬く間に駆け抜けてしまった。芸術の秋は去ってしまったが、音楽は体と共に冷え込んだ心を温める。関西学院大学文化総部邦楽クラブは今、演奏会に向け練習を重ねている。

現在は1年生1人、2年生2人、3年生3人、4年生4人の計10人で活動している。パートは尺八・三味線・箏の三つで、尺八と三味線においては全員初心者という。

邦楽クラブで演奏する曲は古典曲と現代曲に大きく分かれている。曲の大半には唄があり、彼女たちは1曲の中で演奏者として、また歌手として音を聴き手へと届けていく。

普段、邦楽や和楽器に触れる機会が少ない中、現在の部員はなぜ団体に加入したのか。文学部3年の中森柚葉部長（21）と新入部員で文学部1年の高木綾華さん（19）は

箏を担当しており、どちらも経験者。邦楽に関わるようになったきっかけは、和楽器という珍しいものへの興味や歴史への関心からだと言った。

中森さんは「和楽器が持つ特有の音色はとても優しい」と言い、高木さんは「演奏者によって、たった1音でも全く違うものになる、単純なのに面白い」とそれぞれ邦楽の魅力を熱く語った。

今年6月には、同団体は文化庁による邦楽普及拡大推進事業に採択され、楽器のメンテナンスや会場支援が受けられるようになった。部員らが語った邦楽の魅力を広め、継承するべく活動している。現在、邦楽クラブが軸足を置いているのは、12月5日に西宮市のなるお文化ホールで開催する定期演奏会に向けて



の練習だ。一般の観客も事前のチケット購入などは必要なく、無料で入場できる予定。一番の聴き所は元顧問の菊重精峰氏作詞作曲の「新月」という邦楽クラブオリジナルの合奏曲。新入生も含め全員での演奏となる。

精神的に活動している一方で、邦楽クラブは現在部員数が少ないという。「和楽器は普段触れる機会はないと思うが、一度やってみると本当に楽しいのでぜひ体験してほしい」と中森さん。高木さんは「同学年である1年生の学生とも一緒に演奏したい」と共に切望している。

クラブは週に2回、新学生会館3階の和室で活動しており、見学や新入部員を随時募集している。（西本明日華）

教授の背中

激動のインドネシア体感
都市空間を研究

関西学院大学総合政策学部都市政策学科の斉藤憲晃教授は、都市の住宅政策や都市空間のコントロールについて研究している。住民が住みやすいように、都市空間がどう操作されているのか、という問題を扱う。

京都大学大学院工学研究科を卒業し、建設省（現国土交通省）に入省。入省後は英国やインドネシアを訪れ、両国の住宅政策について研究。2009年に関西学院大学に赴任し、現在は居住政策論や都市マネジメント論の講義を担当している。

教授は、インドネシアでの経験が転換点となった。国際協力機構（JICA）の住宅政策の専門家として1990年代後半から約3年間インドネシアで働いていた。最初に苦労したのは言語だった。当時は現在と違い、手軽な翻訳ツールが無く、インドネシア語を使いこなすのが大変だった。辞典を職場に1冊、家に1冊、車に1冊の計3冊所有し、分からない単語があればすぐに調べられるようにしていた。

また、当時のインドネシアはアジア金融危機の真っただ中だった。インドネシアは多くの債務を抱え、国際通貨基金（IMF）の命令により厳しい緊縮政策を強いられ、そのような財政の流れの中でインドネシアの住宅制度も大きな転換点を迎えた。金融危機より前は、低所得者層への住宅の供給を主に国営企業が担っていた。金融危機後は政策を変更し、民間企業の役割が増加するシステムになった。

「当時のインドネシアは激動の時代で変革の時期。その時にインドネシアにいたことは自分に影響していると思

斉藤憲晃 教授

中だった。インドネシアは多くの債務を抱え、国際通貨基金（IMF）の命令により厳しい緊縮政策を強いられ、そのような財政の流れの中でインドネシアの住宅制度も大きな転換点を迎えた。金融危機より前は、低所得者層への住宅の供給を主に国営企業が担っていた。金融危機後は政策を変更し、民間企業の役割が増加するシステムになった。

「当時のインドネシアは激動の時代で変革の時期。その時にインドネシアにいたことは自分に影響していると思



（小林彩乃）

チャンス

サクセス奏者・河田健さん
チャンスを得るための準備

「チャンスは平等にある。でもチャンスをゲットするしかないかの差は準備にある。己を知り、実力の80%を常にさせる訓練を何度もすること

が大切」。関西学院大学の卒業生で、アロージャズオーケストラのサクソフォーンリダーである河田健さん（69）は、音楽を通じて学んだことを、力を込めて語る。

中学2年の夏に吹奏楽部に入学し、サクソスに出会った。高校でも吹奏楽部でサクソスを演奏。トランペット奏者で関学大卒業生の大越徹さんは同じ高校の出身。吹奏楽部以外に自分でバンドを作った。



ポップスやジャズを演奏していた。大越さんに憧れ、追いかけるようにして関西学院大学に入学し、軽音楽部に入学した。在学中は、三宮でバンドのサポートメンバーとしても活動し、帰りは深夜0時を回ることもあった。

大学卒業後は2年間、心斎橋のナイトクラブで演奏していたが、ある日、同業者の先輩から、アロージャズオーケストラのオーディションを受

けるように勧められた。オーケストラのサクソパートで欠員が出て、メンバーを募集していた。入団テストは、関西テレビの番組「ザ・タカラヅカ」の収録リハーサルでの演奏だった。曲は事前に伝えられておらず、即興で演奏したが合格した。

「1日でも長く演奏を」

入団して2、3年は自分への評価が分からず不安だった。当時のバンドリーダーだった北野タダオさんは寡黙な人で、大越さんの演奏につ

いても言葉で具体的な評価をしてもらえず、疑心暗鬼に陥った。自分の能力でプロとしてやっていけるかどうか悩んだこともあった。しかし、好きな音楽を続けたいという強い意志と、周りの仲間にも恵まれてオーケストラを続けられた。

河田さんは演奏するとき「自然に言葉をしゃべっているかのようにナチュラルに吹くことを大切にしている」。その時、その場の雰囲気や感情に合わせて吹くことで、聴いている人に演奏が伝わりやすく、自分にとっても気持ちがいいという。

（井上聡）

この学生に
注目！

「向かっていく立場で」

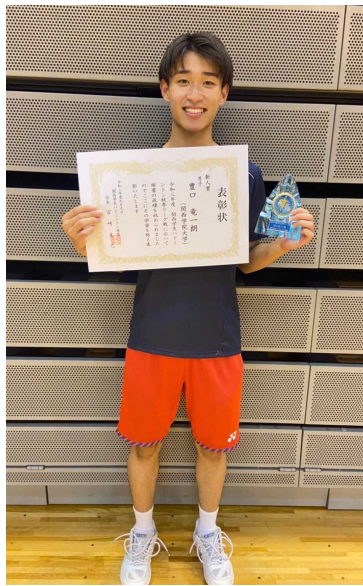
男子バドミントン部
豊口竜一朗 さん

さん

「子供の頃から相手のミスを読み、粘り強く戦うことを自分のプレイスタイルにしていた」と豊口さんは話す。しかし、フィジカルな強さに課題が残っていた。「力勝負になるといつも負けてしまう。

このままでは上には勝てない」と焦る中、バドミントン部では新型コロナウイルスの影響で準備、後片付けなどを含めて1時間しか練習ができていない時期があった。そうした状況で、豊口さんは自主的に、自分の課題であ

るフィジカル強化のために、筋トレやランニングを他の練習よりも重点的に取り組んだ。その結果、力勝負になつた時でも相手の動きを崩せることができて、相手を見ながら勝負できるようになった。だから新人賞を取れた」



今後は「フィジカル強化はもちろん、向かっていく立場で戦って、インカレで全ての種目（シングルス、ダブルス、団体戦）でベスト4以上を取る」と話した。また「もし機会があれば実業団に入って、もっと強い選手と戦ってみたい」と将来についても話した。（山形昌太郎）

新型コロナ感染の関学生

「コーラとサイダーが同じ飲み物のよう」

社会学部2年の男子学生（19）は7月末に新型コロナに感染し、8月上旬までの14日間、自宅療養を体験した。陽性が判明したのは7月30日。8月1日から始まる部活動の合宿前に、部のスタッフやマネージャーを含む約200人が受けたPCR検査で、男子学生を含む5人が陽性と分かった。

検査した日の体調はいつも通りで症状もなかったものの、療養期間に入ってから症状が現れた。髪の毛が抜け、

味覚と嗅覚が弱くなった。例えば、コーラとサイダーが同じ飲み物に感じられる。風味が分からず、どちらも「甘い炭酸」という感じ」と当時の状態を振り返る。そのため、療養期間が明け徐々に味覚と嗅覚が戻り食事が楽しめるようになったときはうれしかったという。

全国的に流行している感染症であり「いずれ自分もかかるだろう」と思っていたため、自宅療養中も自身の体調悪化をそれほど心配していなかった。

コロナ禍で変化する就活 キャリアセンターの対策は

関西学院大学キャリアセンターは「キャリアガイダンス」志望業界・企業の見つけ方を10月20日、オンラインで開催した。昨年から新型コロナウイルス感染拡大に伴い、同センターが開く全ての

ガイダンスがオンライン化している。コロナ禍で変化する就活様式に、社会学部3年の男子学生は「大学や各企業が出す膨大な情報の中で、必要な情報の取捨選択が本当に難しい」と不安をにじませる。大学の情報化推進機構は8月、学生向けポータルサイト「k-wic」を始め、煩雑な情報の一本化を図った。しかし、キャリアセンターの職員は、同サイトが情報過多を招く一因となっているのではと話す。「弊センターだけでなく、学部からの情報や課外団体の情報も（サイトに）同時に届くようになったのは、学生にとって不便かもしれない」と嘆く。

一方で、今後のイベントの動向については「登壇される企業がテレワークを推進している場合、無理に出張を頼む」



オンライン就活イベントを知らせる看板11月22日、西宮上ヶ原キャンパス、木村航太撮影

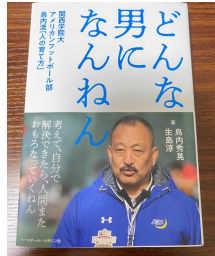


どんな男になんねん

鳥内秀晃・生島淳〈著〉

ベースボール・マガジン社

1700円（税別）



日進月歩

新型コロナワクチン 社会全体での理解を

新型コロナウイルスの感染拡大は一進一退を繰り返している。

今年、感染力が強いと言われる変異株により、急速な感染拡大が日本中で猛威を振るった。政府は新型コロナウイルスに対抗するワクチン接

から、同センターは就活で悩む学生との個人面談を対面で再開する。「センターへ簡単に足を運べない学生も含めて、コロナ禍で孤独に就活に取り組み学生にどのような情報を届けるかが今後の課題だ」（木村航太）

著者の1人の鳥内秀晃さん（62）は関西学院大学体育会アメリカンフットボール部の前監督。同部のOBでもあり、現在はアメフトの解説や講演会での講義など、活躍は多岐に渡る。

中でも触れられているが、形式張らない関西弁での口調により、スムーズなコミュニケーションを取ることでできると語った。

出版後、大阪府の大型書店ではしばらくの間、スポーツ部門で1位の売り上げを誇っていたそうだ。また、この本を教本として授業に用いる教授もいるという。「この本は面白いし、2、3時間で読めるので、一度ではなく何回も読んでほしい」

鳥内さんは学生に向けて「色んなことに興味を持って、的だと気付いたそう。出版後、大阪府の大型書店ではしばらくの間、スポーツ部門で1位の売り上げを誇っていたそうだ。また、この本を教本として授業に用いる教授もいるという。この本は面白いし、2、3時間で読めるので、一度ではなく何回も読んでほしい」



学校法人 兵庫県自動車学校

普通車・準中型

TEL:0798-67-2200

兵庫県自動車学校

関学生協サービスカウンターにてお申込み下さい。



種を進め、緊急事態宣言などにより感染を抑えようとしてきた。

も一つの不安要素につながっているだろう。その他にもワクチンによる格差ができ不平等を感じる意見も少なくない。

ワクチンパスポートなどによる接種による規制緩和などが検討されている。

後、要点は「ワクチンの情報の不透明性をより下げるべきだ。また接種における格差の是正も不可欠である。今後の新型コロナと共存する社会において、3回目の接種も近く始まる。情報はより多く、差はより少なくし、社会全体で理解を深めていく事が求められる。」

グリー 12 回連続全国 エゴラド 6 年ぶり金賞

関西合唱コンクールの大学職場一般部門が10月10日、兵庫県伊丹市の東りいたみホールであり、大学ユースの部・大人数で、関西学院グリークラブと混声合唱団エゴラドが金賞を受賞した。グリークラブは12回連続で関西代表としての全国大会出場となり、平見佳久部長（教育学部4年）は「うれしさよりも安心が大きい」と心境を語った。6年ぶりの金賞となったエゴラドの守屋太郎部長（文学部4年）は「コロナ禍で金を取れたのはおかしい」と笑顔を見せた。

関西学院グリークラブ

「うれしさよりも安心」

「全国に行けないとOBに顔向けできないし、自分たちのメンツが立たない。とても大きなプレッシャーがあった」

グリークラブの平見部長は受賞が決まった後、例年のような余裕はなかったと話した。「他団体の仕上がりが分からないうちに大会に臨んだ。10年以上続く全国出場を、自分たちの代で止めなくてはならなかった」と大会前の心境を振り返る。関西合唱連盟のホームページで結果が発表された時の様子を「3、4年生は安堵感に、1、2年生はうれしさに包まれていた」と話した。

混声合唱団エゴラド

「コロナ禍の金はでかい」

「前回金賞を取った人たちがいない中、今いるメンバーで最高のものを作りたいかった」

本来、エゴラドでは3年生が部長を務めるが、今年は4年生の守屋部長が担当している。守屋部長は「学生だけで部を運営することは難しいが、強みでもある。意識したのは、頑張りたい人が頑張れる環境を整えることだった」と振り返った。コロナ禍で他大学の合唱部が廃部している例を挙げ、「金賞を取れたことはもちろん、今活動できていることが誇らしい」と思いを語る。

コロナの影響で活動に制限がある中、グリークラブとエゴラドは協力して大会に備えていた。大学への申請の提出方法や、ど

ここに練習できる場所があるなどの情報交換を通じて、互いに励ましあっていたという。「一つの大学から大人数での出場が二つもできた。グリーと一緒に金賞が取れてうれしい」と守屋部長。



関西学院グリーフェスティバルの収録前日の練習＝10月2日、柴崎辰徳撮影

関・同グリー 22年ぶり協演

第18回同関交歓演奏会が

8月17日、京都コンサートホール（京都市左京区）であり、関西学院大学と同志社大学のグリークラブ（男声合唱団）が22年ぶりの協演を果たした。感染症対策のガイドラインの下、観客を入れて開催した。今回の公演が関西学院グリークラブ12代目での初公演で、平見部長は「コロナ禍開催の手法になってほしい。希望になっていけば成功だ」と話した。

グリークラブが出場する全日本合唱コンクール全国大会は11月20日に岡山シンフォニーホール（岡山市北区）で開催され、金賞を受賞した。（西村遼）

初の無観客開催

動画配信サイト「YouTube」で10月3日、関西学院グリークラブら他3団体が出演する「第50回関西学院グリーフェスティバル」が開かれた。今回、新型コロナウイルス感染症対策で初めて無観客での開催となった。

「演奏はもちろんのこと、私たちが色々模索してきた工夫を見てほしい」と語るのは、関西学院グリークラブ部長の平見。演奏会に向けてのリハサル練習や収録では、徹底した感染対策が見られた。

演奏者は練習時からマスクを着用し、間隔を空けるといった対策を行った。他団体との接触を避けるため、合同ステージも時間を分散して収録した。練習や収録後には演奏者が使った席を一つずつ消毒した。収録現場の舞台袖が狭く、観客席から直接入退場する必要があった。そのため、演奏会の配信では演奏者の入退場のシーンをカットした。

平見部長は「今回の開催を諦めることはできなかった。どんな形であろうとも開催させたかった」と語った。（柴崎辰徳）

開催に当たってガイドラインの作成に苦心し、完成まで1か月を費やした。兵庫県京都府、大学がそれぞれ独自の規制を設ける中京都府合唱連盟、兵庫県合唱連盟の協力もあって作成に至った。市川さんは「折り合いをつけるのに苦労した」と話した。（秋田倭宜）

マスクも味方に

混声合唱団エゴラドの守屋部長は、デザイナーの林茂昭さん（Atelier de h・s）と、合唱用に特化したマスクを開発した。

日常生活で使われる不織布マスクでは、合唱中にずれてしまうといった問題があった。昨年の夏に20個の試作品を作り、12月には大学から合唱時の使用を許可された。しかし、数日後に文部科学省が制定した合唱用マスクの規定で下部の開放が広いマスクに該当し、使用できなくなってしまう。守屋さんと林さんは、完成していたマスクの顎部分に別布を縫い付けることで、使用できるように改良した（写真）。



エゴラドは白色を使用し、グリークラブでも紺色が使われている。関西コンクールでは大会要綱で、不織布マスクのみの使用を定められて使えなかった。マスクは両部で練習時や演奏会で使用され、グリークラブからは「合唱用で呼吸がしやすい、針金が入っていない口元の空間も確保できる」との声が上がっている。（西村遼）

関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

大型車・中型車・準中型車・普通車(AT/MT)・
大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。

SANDA AUTOMOBIL SCHOOL
SAS
SINCE 1963

兵庫県公安委員会指定

三田自動車学院

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995
E-mail:sas.1963@poppy.ocn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com

